

# 私学最前線

## わが校の取り組み

### 伝統のグローバル教育を加速

江川昭夫・学校法人聖母被昇天学院アサンブション国際中学校高等学校長



聖母被昇天学院は1839年、パリにおいて聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天学院修道会を母体とする学院です。1953年の本学院建学以来、アサンブション（聖母被昇天）ファミリーの一員として、世界平和を希求し続け、63年の月日が流れました。2017年は聖マリ・ウージェニー生誕200年となります。

建学当初より、その創立理念は変わることなく引き継がれています。それは世界35カ国の姉妹校と手を取り合い、国際的な精神を養うことで、世界平和の実現に貢献できる人材の育成に努めることです。つまり、本学院ではグローバルという言葉が普及する以前より、グローバル教育を行ってきたのです。そして、そんな伝統ある本学院のグローバル教育は、今後さらに加速します。

17年4月より、学院設立以来最大とも言える学校改革「21世紀教育」を始動することとなりました。これは、聖母被昇天学院（小学校・中学校・高等学校）と、大阪聖母学院（小学校）・大阪聖母女学院（中学校・高等学校）の6校を合わせた教育プロジェクトですが、聖母被昇天学院と聖母

女学院による法人提携はありません。あくまでも別法人として連携をし、全国に先駆けて、この大阪から世界標準の教育を発信することを狙っています。私はこの連携のことを「高々連携」と呼ぶことを提唱しています。別法人同士、（場合によっては生徒を奪い合うような）ライバル校とも手を組んで、同じ目標に向けて連携をしていく、そんな気概がこれからの教育現場では必要となってくるという確信があるからです。

#### 探究型授業で問題解決力育成

さて、本学院における「21世紀教育」についてご説明します。まずは校名を「アサンブション国際」とし、男子にも門戸を開きます。これからのグローバル社会で活躍するためには、性別、年齢、国籍の垣根を越えて、さまざまな場所で自分の意見を発信する必要があります。そのために、これまで通りの留学生に加え、男子生徒も受け入れることで、生徒たちには多様な価値観を養ってほしいという願いから、男女共学化に踏み切ることになりました。また、伝統ある英語教育をさらに進化させた「イマージョン教育」を実施します。英

語以外の教科をネイティブ教員による英語での授業を行うことで、圧倒的な英語環境をつくります。さらには「主体的・対話的で深い学び」である「PBL型（探究型）授業」のほか、「ICT（情報通信技術）」を活用した多角的な教育も本格的に実施します。

従来のような知識集積型の教育では、ダイナミックに変化し続けるこのグローバル社会に対応することは難しくなってくるでしょう。予想もつかないほど目まぐるしく変化し続ける21世紀の社会で生き抜くためには、自分の頭で考え、問題を解決していく力、つまりは「問題解決力」と「創造力」が何よりも求められます。そこで本学院では、課題解決型の授業を展開することで、生徒の課題解決力を醸成してまいります。

イマージョン教育による圧倒的な英語力、PBL型授業による問題解決力、そして創立時より変わらず継承されるカトリックによる愛の力、この三つの力を育み、生徒たちを上級学校に、そして社会に送り出したいと考えております。今、日本において最も求められているのは、グローバル社会の舵取りを行うリーダーです。我が校より羽ばたく生徒たちが、混迷を極める現在のグローバル社会の中で、常に平和を希求し、いつしか世界のリーダーとして活躍する日が来ることを心から願います。多様な価値観を尊重し合い、奪い合うのではなく、与え合うことができる人を一人でも多く育てるために、今後も恐れることなく学校改革に邁進してまいります。